

## 輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部  
購買推進課

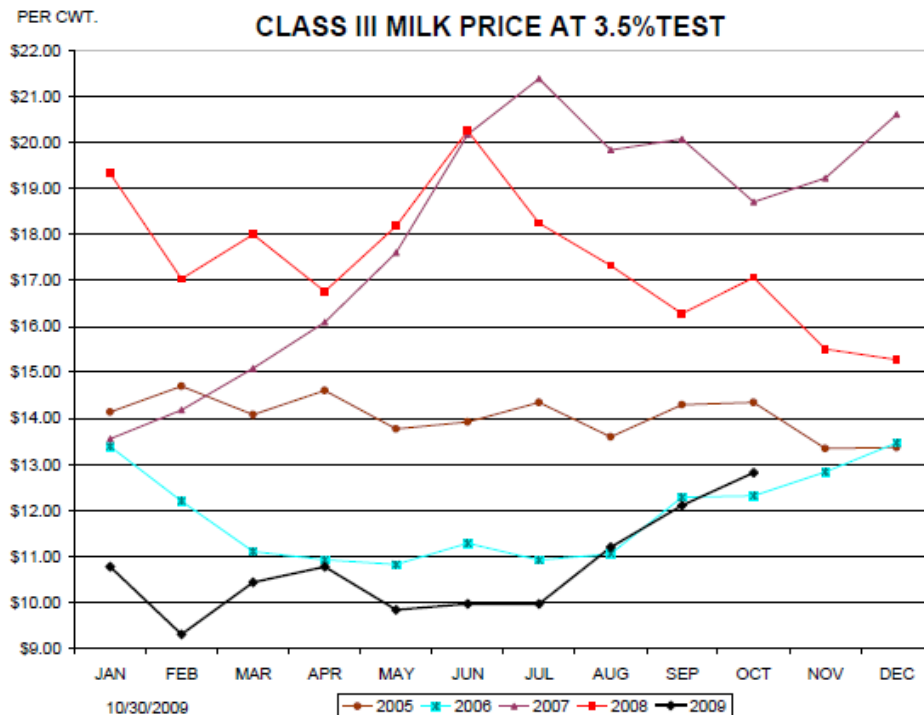
### 北米コンテナ船フレート

9月からGR I (General Rate Increase: 基礎レート) の値上げに続き、10月に入り多くの船会社でBAF (Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数: 燃料価格変動に対して調整される割増運賃) の値上げが実行されましたが、11月に一部船会社で\$150-200の値上げ、さらに12月に各船会社より\$150 (L A/L B港は\$100) のGR I-斉値上げが実行されました。また船会社によってはこの値上げに加えて、特定の地方港に対してさらに値上げを行いました。年明け1月には再びBAFの値上げが予想されており、今後もフレートの値上げが続く見込みです。

### 米国の乳価動向

9月10日号でご案内の通り、米国では牛群淘汰プログラムが09年5-7月と7-9月の2回施行されて、1回目で約101,000頭、2回目で約87,000頭が淘汰対象となりました。牛群淘汰プログラムとは、NMPF (National Milk Producers' Federation: 全米生乳生産者連盟) が乳価の維持のために独自に運用するCWT (Cooperative Working Together: 酪農協同事業) の事業の一つで、生乳生産安定法に基づき義務化されている生産者の拠出金 (100ポンドあたり15セント) とは全く別の、政府の関与を受けていない事業です。このプログラムは、参加会員から生乳100ポンドあたり10セント (開始当初03年は5セント) を徴収し、これを財源としています。参加した酪農家は、NMPFによる年間生乳生産量を勘案した牛群の買取り価格の査定を受け、と畜処分にて牛を売った上に、補填金 (補填金単価×年間生乳生産量) を受け取ります。

現在米国の乳牛頭数は910万頭で、1年前と比較すると22万6千頭の減少となり、今後もさらに頭数の減少が予想されています。乳価も8月以降は回復基調となっており、今後もこの傾向は続く見込みです。また乳価は低水準ではあるものの、年明け早々には多くの米国酪農家で利益が出るようになる見込みです。10年産乾牧草では再び旺盛な買付となるか、年明けからは米国の酪農情勢にも注意が必要となりそうです。



## ビートパルプ

### <米国産>

主産地ミネソタ／ノースダコタ州での収穫は11月中旬にほぼ終了しました。例年であれば10月中旬で概ね終了するところ、今年は9月1週目の収穫開始から降雨が多く、収穫作業の中断を余儀なくされた圃場が多かったことと、寒波の到来が例年より早く一部圃場ではビート大根が凍結してしまい、収穫を断念せざるを得なかったことから、収量は前年比10～30%減少する見込みです。製糖およびペレット製造は来年春先まで行われる予定です。10年産の作付けは来年5月に行われますが、現時点では09年産と変わらない水準の作付面積となることが予想されています。

### <中国産>

中国産ビートパルプの09年産については、作付面積が大きく減少し、悪天候続き（春：干ばつ、夏：多雨・洪水、秋：干ばつ、冬：早い到来）により収量も減少している模様です。また、中国国内の需要も増加傾向にあり、ビートパルプにおいても中国が今後とも輸出国であり続けられるか疑問視され、長期的にみると輸入国に転じることも予想されます。09年産の輸出余力（日本、韓国が買える数量）は合計100,000トン程度との見方があり、供給余力が不安視されます。仮に輸出余力が100,000トンとなると、日韓両国で250,000トン前後の中国産ビートの輸入があるため、6割減ということになり、市場に与えるインパクトは

大きなものとなりそうです。

## **アルファルファハイ**

### **<ワシントン産>**

コロンビアベースンでは収穫は終了しています。現在、輸出向けの需要は強く供給がタイトな状況が続いています。特に3タイププレミアム品への需要が強く、ほぼ完売の状況です。

10年産の作付面積については、若干の減少が予想されています。同等程度の利益であるならば、アルファルファと比べて手間のかからない作物への転作も検討する生産農家もいるようです。また、作業効率の良いBIGバールでの収穫を望む生産農家が引続き増えているため、10年産はさらに3タイでの収穫が減少することが予想されます。

### **<オレゴン産>**

クリスマスバレー、クラマスフォールズともに収穫は終了しています。BIGバールの在庫は若干残っているようですが、3タイは輸出向けで需要が集中していることもあり、ほぼ完売の状況です。プレミアム品が非常に限られていることから、今後も供給はタイト気味となる見込みで、産地価格はワシントン産に比べて割高で推移しています。

### **<ネバダ産>**

ネバダ州でも収穫が終了しました。3タイへの需要が強く、ほぼ完売の状況です。この地域でも、作業効率の良いBIGバールでの収穫を望む生産農家が引続き増えているため、10年産はさらに3タイでの収穫が減少することが予想されます。

### **<カリフォルニア産>**

北カリフォルニアでは、一部の生産農家で生産されていた7番刈がほぼ終了を迎えており、これで10年産の収穫は終了となります。現在、夜間はとても冷え込む時期で水分調整が難しく、7番刈については概ね米国酪農家向けとなるようです。

インペリアルバレーでは、10年産の作付面積については11/15時点でのエーカーレポートによると、前年対比108%の134,503エーカーとなっております。ワシントン州とは逆で、世界的な小麦豊作の影響で小麦価格が下落となり、一部圃場でアルファルファなどへの転作があったために、作付面積は増加となっている模様です。

両産地とも、需要の中心は韓国・UAE向けで、日本向けの数量は少ないようです。

## **チモシー**

### **<米国産>**

ハイグレード品（馬用・牛用プレミアム品）の引合いは強く、現時点では完売で追加での買付けは厳しい状況です。当初は牛用プレミアム品までが強い引合いとなっていました。買付けできないハイグレード品の代替需要が1番刈のスタンダード品までに広がっているため、同グレードの引合いも強まっています。

価格については、ハイグレード品からスタンダード品は需要高と良品供給タイト感から、今後も大幅な値上げが見込まれています。各サプライヤーとも今年は例年通り、10月出港分から冬季屋内薫蒸料金を加算させています。

また、カナダ産の不作・生産量減少で米国産への引合いが強かったことと、生産農家が満足できる価格（利益が取れている）で推移していることから、10年産の作付面積予想については増加が予想されています。

### **<カナダ産>**

カナダ西部の干ばつの影響により国内からのチモシーの引合いが強く、生産農家の在庫も残りわずかです。今後の輸出向け追加買付けは非常に厳しい状況です。サプライヤーとしては、米国産と価格が常に比較されるカナダ産において、国内向けの強い需要に対抗する買付価格を提示できず、集荷に苦労している模様です。

## **スーダン**

インペリアルバレーでは収穫が終了しています。09年産は大幅な作付面積減少の影響もあり、茎細のプレミアム品およびライトカラー品の生産量は大幅に減少しているため、産地価格については今後も値上げが見込まれています。10年産の作付面積については、08年産以前のレベル（55,000エーカー前後）に回復すると予想されています。背景には小麦価格の低迷と、生産農家にとって魅力的であった08年産、09年産のスーダンの価格があります。作付面積が増えることで09年産に不足したプレミアム品の発生量も回復することが、早くも期待されています。

北カリフォルニアでも収穫が終了しています。09年産はインペリアルバレーと同様に08年産の供給不振による生産意欲の低下、さらには水不足、ヒマワリやトマトなどへの転作により半減したと見込まれています。2番刈で期待されていたプレミアム品が少なかったことから、今後もさらに供給のタイト化と産地価格の値上

げが見込まれています。

## **クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）**

クレーングラスの収穫は終了しました。エルセントロ地区では6番刈の刈取りも一部行なわれました。09年産全体を通してエーカーレージレポート上での作付面積は微減となりましたが、3番刈以降水入れをせずに放置されている圃場を含めると、09年産は前年比20%程度の収量減と予想されます。

10年産の作付面積予想について、さらに減少するとの見方と現状維持との見方の両方があり、現時点で明確な動向は判断できません。

またストロー類の値上りの影響で、11月に入り韓国からクレーングラスの引合いが増え始めた模様です。

## **ストロー類**

09年産のストロー類の作付けは、前年対比でライグラス、フェスキューともに20%減少となっています。いずれも刈取りは終了しています。ライグラス、フェスキューともに刈取り後に多くの圃場で雨あたりとなり、良品の確保が不安視されております。

08年産の種子の在庫が過剰にあるため、生産農家は早くも10年産のストロー生産を減少させる意向を持っており、価格は毎月高騰しています。まだ採算割れで販売しているサプライヤーも多く、今後も大幅な値上げが見込まれています。

## **豪州産オーツヘイ**

### **<西豪州>**

08年産は雨あたり被害が大きく、生産農家の作付け意欲が減退し作付面積が前年対比で約20%減少しました。ただ播種前と生育期に適度の降雨があったことでオーツヘイの成長は良く、09年産の単収は例年以上となっています。そのため生産量は前年対比で若干増加しています。

品質については、刈取初期と刈取後期は天候にも恵まれたため、雨あたり被害がないものも多く収穫されましたが、刈取中期に降雨があったため約40%の圃場で雨あたり被害を受けてしまいました。またこの雨を避けるために刈遅れとなった圃場もあり、見た目が良好でも分析値がさほど良くないものも出ているため、西豪州からは様々なグレードのオーツヘイが発生している模様です。

### **<南豪州>**

西豪州と異なり、08年産は良品揃いだったことにより作付面積は前年対比で増

加しています。また播種期から生育期にも適度の降雨があったため単収も増えており、前年対比で生産量も増加しています。

品質については、刈取初期に降雨があり、約35%の圃場で雨あたり被害を受けてしまいました。その後は天候も回復したことにより雨あたり被害がないものも多く収穫されています。また刈取適期に収穫されていることにより、総じて分析値の良いものが収穫されました。したがって、南豪州でも様々なグレードのオーツハイが発生している模様です。

#### <ヴィクトリア州（東豪州）>

南豪州と状況が似ており、作付面積は08年産より増加しています。播種期から生育期にも適度の降雨があったため単収も増えており、前年対比で生産量も増加しています。

品質については、刈取初期に降雨がありましたが、非常に限定的で約5%の圃場でのみ雨あたり被害が発生しました。また刈取適期に収穫されていることにより、総じて分析値の良いものが収穫されているため、ヴィクトリア州（東豪州）ではハイグレード品が多く発生している模様です。

以 上